

【助成採択者情報】 ※申請書記載内容に基づく

採 択 年 度

2016 年度

氏 名

清水 陽一

所 属 機 関

国立がん研究センター 社会と健康研究センター健康支援研究部

課 題 名

終末期がん患者の家族介護者のレジリエンスの、家族介護者の精神的健康および死別後の精神的健康に対する影響を明らかにするための研究

助 成 額

500,000 円

研究報告概要

終末期がん患者の家族介護者は介護および愛する方の看取りを通して負担を感じ、精神的健康度が低く、また死別後は一定割合で複雑性悲嘆や抑うつを経験する。そのため、家族介護者の精神的苦痛を緩和し精神的健康を高めるような支援プログラムが必要であり、レジリエンスが精神的苦痛に対して緩衝的に機能することが予想されるため、終末期がん患者の家族介護者の精神的健康度とレジリエンスとの関連を明らかにすることが本研究の目的である。死別前の終末期がん患者の精神的健康度およびその関連要因、死別後の精神的健康度の予測因子、レジリエンスとの関連を調査する日本において初めての調査である。ベースライン調査として、緩和ケア病棟に初回入院された終末期がん患者の主家族介護者を対象に質問紙調査を行う。死別後に行う遺族調査のデータと連結しコホート化し縦断研究を行う。対象者に研究者等が説明し文書にて同意を得る。本調査を実施することで、1) 緩和ケア病棟に入院中の終末期がん患者の家族介護者の精神的健康度の実態に関する示唆が得られること、2) レジリエンスと精神的健康度の関連や精神的健康度に関連する要因が明らかになることで、終末期がん患者の家族介護者のニーズに合わせた看護や心理社会的な支援の開発につながることを期待される。